



※今月のみ受注の書目です。注文が重複した場合は、多い方の冊数で進めさせていただきます。

哲学書／環境書ご担当者さま

(2019年8月中旬刊行予定)

# 哲学は環境問題に使えるのか

## 環境プラグマティズムの挑戦

アンドリュー・ライト (ジョージ・メイスン大学人文・社会科学カレッジ教授)、

エリック・カツツ (ニュージャージー工科大学教授) [編著] /

岡本裕一郎 (玉川大学文学部名誉教授)・田中朋弘 (熊本大学人文社会科学部教授) [監訳]

A5判上製 / 480頁 本体予価 5,400円 ISBN978-4-7664-2612-0 C3012

👉 ココに注目!

- 「環境倫理学」をアップデートする「環境プラグマティズム」!
- その基本文献であるアンソロジーがついに翻訳!

1990年初め日本にも紹介された「環境倫理学」。当時、生命倫理学と共に注目されたが、90年代半ばに欧米では大きな地殻変動が起こっていた。実際の環境政策に応用できない、実行不能な「環境倫理学」を批判し、プラグマティズムの哲学を融合させた本論集『環境プラグマティズム』から「環境倫理学〈2.0〉」は始まった。その基本文献がついに邦訳なる。「環境倫理学〈3.0〉」を展望するうえでも必読の書となるだろう。

📖 類書 加藤尚武『加藤尚武著作集 第7巻 環境倫理学』(未来社)

👤 対象 環境問題に取り組む研究者・学生 / 応用倫理学を専攻する研究者・学生

### 【訳者解説より一部抜粋】

残念なことに、日本の場合その名前すら知られていないのである。(「環境プラグマティズム? 何それ?」) ハッキリ言って、日本では「環境」に対する考え方が、50年前からほとんど進んでおらず、しかもその自覚さえないのである。比喩的に言えば、2周遅れて走っているのに、その遅れに気づかず走っているようなものだ。

この状況を打開するため、環境問題を考えるための必読書とも言うべき本書を、何としても日本語で提供しなくてはならない、と決断したのである。その点で、(監訳者としての立場を離れても) この訳書は、間違いなく待望の一書と言えると思う。



ご注文は FAX で! 03 - 3451 - 3124



番線	ご注文部数	発行所：慶應義塾大学出版会	本体予価	部数
新刊委託		アンドリュー・ライト、エリック・カツツ 著 / 岡本裕一郎・田中朋弘 監訳	5,400円	★★★
		哲学は環境問題に使えるのか —環境プラグマティズムの挑戦 ISBN978-4-7664-2612-0 C3012		

★1つで「500部」を表します

👉 裏面に補足情報があります! ぜひご確認ください!

Philosophical Challenges in the 21<sup>st</sup> Century

Quentin Meillassoux  
Markus Gabriel  
Richard Rorty  
Thomas Mathiesen  
Bernard Steigler  
Maurizio Ferraris  
Okamoto Yūichirō  
岡本裕一朗

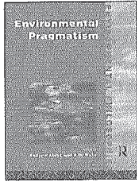
いま世界の哲学者が考えていること

いつまでも「哲学＝人生論」と思っているのは日本人だけ!

人工知能、遺伝子工学、格差社会、テロの脅威、フィンテック、宗教対立、環境破壊……

ダイヤモンド社 「世界最高の知の巨人たち」が現代のとけない課題に答えをだす

監訳者のお一人、岡本裕一朗先生のベストセラー『いま世界の哲学者が考えていること』（ダイヤモンド社、2016年）でも、本書の原書である“Environmental Pragmatism”について触れられています！



**Environmental Pragmatism**  
Eric Katz, Andrew Light (eds.) (Routledge/1996)

70年代から展開されてきた環境倫理学に対して、90年代に大きな批判が沸き起こってきた。当時のプラグマティズムの流行と手を携えるように、環境保護論でもプラグマティズムの必要性が強調された。基本的な論文が多数含まれているが、いまだに邦訳がなく残念。

↑ 『いま世界の哲学者が考えていること』ブックガイド (p.309) より